

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

## 日本語と中国語における名詞句の意味機能に関する 対照研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-09-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2291">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2291</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 論文内容の要旨

学位申請者氏名 肖海娜

言語類型論 (Linguistic Typology) によれば、語の形態的組成様式の観点から、世界の言語は「孤立語」、「膠着語」、「屈折語」、「抱合語」に類別化される (Schlegel1808, 長野 2011 など)。周知の通り、この分類に従えば、日本語は膠着語に属するのに対し、中国語は孤立語に属する。また、統語的組成様式の視点に立つと、日本語の基本的な語順は SOV であり、中国語の基本的な語順は概ね SVO であると言える (S=主語, V=述語動詞, O=目的語, 例 (1))。このように、日本語と中国語は言語類型的相違の大きい言語であるが、名詞句<sup>1</sup>の語順に着目すると、例 (2) のようにいずれも修飾語が主名詞の前に置かれるという共通した特徴が見られる。例えば、(2) では、両語とも修飾語「木」が主名詞「机」に先行した上で、それぞれ接続形式「の」と“的”を介して結ばれている。

- (1) J. 私はご飯を食べる。  
C. 我吃饭。
- (2) J. 木の机  
C. 木头 (的) 桌子

そして、修飾語になりうる語 (語句) は日中両言語ともに、述語以外のもの、述語によるもの、の 2 種類に分けることが可能である。述語以外の修飾語は、例 (2) の名詞の他、数量詞 (3)、代名詞 (4)、指示詞 (5) などによるものが挙げられる。

- (3) J. 三冊の本  
C. 三本书
- (4) J. 私の本  
C. 我的书
- (5) J. この本

---

<sup>1</sup> ここで言う名詞句 (noun phrase) は『言語学大辞典』第 6 巻、術語編の定義に従うものである。「名詞句は、名詞とそれを限定する形容詞などの語との結合である。(中略) 限定するものが一つの語でなく、1 つの文になりうる語結合の場合には、連体節を形成し、その節をしめくくる用言を連体形にして名詞の前におく」(p. 306)。したがって、例 (i) (ii) のいずれも名詞句に属するものである。

- (i) 赤い花
- (ii) 私が買った本

### C. 这本书

一方、述語による修飾語は、動詞（動詞句）、形容詞（形容詞句）を含むものを指す。(6)は「私買った」という動詞を中心としたまとまりによる修飾語であり、(7)は形容詞「きれい」が主名詞「花」を修飾している。本研究では、このような述語による修飾語を「連体節」<sup>2</sup>と名付ける。

(6) J. 私が買った本

C. 我买的书

(7) J. きれいな花

C. 漂亮的花

名詞句に関する研究は、日本語や中国語の個別言語研究のみならず、対照研究の立場からの論考も数多く存在する。また、名詞句を扱うこと自体が、それぞれの言語における文法現象全般に関わる問題であるとも言える。なぜならば、構成要素からいえば、上述した通り、名詞、動詞、形容詞、数量詞、代名詞、指示詞などの品詞全般に関わる問題であり、形式的側面においては、接続形式の問題、名詞句の階層性、主名詞の種類、修飾語に現れる要素の範囲などに問題が広がるからである。さらに、意味機能的側面においては、当該の形式の成立が、発話文脈、テキストなどに依存することから、いわゆる談話のレベルにも議論が波及することになる。

以上のような名詞句研究の奥深さに注意を払いつつ、本研究では、分析範囲を基本的なところ限定し、主として(6)(7)のように述語要素を含んだ連体節による名詞句を考察対象とし、日本語と中国語における名詞句の特徴、及び意味機能の相違について議論する。

また、前述のように、中国語はSVOの語順を取りながら、名詞句の語順はSOV言語である日本語と一致する。このような特質を持つ中国語は、世界の諸言語のなかで少数派のタイプに属する指摘があるのと同時に、(このような特質が原因となって)中国語に

---

<sup>2</sup> 文は、単文と複文に分けることができる。単文とは、一つの述語を中心としたまとまりのことを指す(i)。複文とは、述語を中心としたまとまりが2つ以上集まった文のことである(ii)。複文における述語を中心としたまとまりを「節」と呼ぶ。

(i) 私が本を読んだ。

(ii) 私は昨日買った本を読んだ。

また、「節」には、それだけで文になりうるものと他の節に依存することで文の一部を構成するものがある。前者は主節、後者は従属節と呼ばれる(益岡1997a:1-7を参照されたい)。例えば、(ii)の「読む」は文を支える中心要素すなわち主節になるのに対し、節である「昨日買った」は文の補足語である「本」を修飾している。日本語学では名詞を修飾する節(「昨日買った」)を「連体(修飾)節」と名付けることが一般的である。

一方、名詞句とは、文の補足語である名詞に連体節が付された句のことである(iii)。

(iii) 昨日買った本

においては、「修飾節を重層的に膨らませていくことに不向き」（木村 1996/2017:49）という主張も見受けられる。例えば、日本語では「子供たちハ、自転車ヲ盗ンダ教師ヲ捕マエタ学生ヲ殴ッタ警察ヲ見ツケタ」（木村 1996/2017:46）のように主名詞「警察」の前に複数の動詞句による修飾を受けることができる。しかしながら、中国語では、複数の名詞句による連体節“揍抓住偷自行车的教师的学生的警察”は不適格である。すなわち、中国語の基本語順が原因で、連体節を伴う名詞句の生起が制限されている。

これまで、日本語と中国語の対照研究を行うに当たり、以下の3つの論点をめぐって議論が行われてきた。

- (i) 日本語と中国語の名詞句における接続形式の相違
- (ii) 日本語と中国語における名詞句の類別ごとの生産性
- (iii) 日本語と中国語における名詞句の有する意味機能の相違

(i) については、杉村 (1990)、水野 (1993)、陸丙甫 (2000, 2008) が、接続助詞「の」と“的”に関して、山田 (1999)、王彩麗 (2010) が「という」と“的”を中心にそれぞれ議論を展開している。本研究では、(ii) (iii) の問いを中心に第 I 部、第 II 部に分けて分析を行う。

## 【第 I 部】

第 I 部では、(ii) の問題に着目し、名詞句の類別に沿って考察を進めていく。広く知られているように、日本語学では、(8) のような例を「内の関係」、(9) のような例を「外の関係」と呼んでいる (寺村 1975-1978)。

- (8=(6)) J. 私が買った本  
C. 我买的书
- (9) J. 日本語を勉強しようという決心  
C. 要学习日语的决心

(8) の主名詞「本」と連体節「私が買った」の間には「私が本を買った」という格関係が見られるのに対し、(9) の連体節「日本語を勉強しよう」と主名詞「決心」の間には格関係が存在せず、連体節全体が主名詞の内容を説明するものとなっている。中国語学では、中国科学院言語研究所語法小組 (1953)、丁声树等 (1961)、古川 (1988) などの先行研究において、(8C) (9C) に相当する中国語の形式に関する記述・分析が行われている。これらの日中個別言語の先行研究を見る限り、日本語と中国語における名詞句の種類、及び性質にそれほど大きな違いを見出すことはできない。一方、日中対照研究では、中国語における名詞句の使用頻度が日本語に比べて低いことが繰り返し指摘されてきた (山田 1999, 堀江/プラシャント・パルデシ 2009, 孫海英 2009, 楊凱榮 2011,

新屋・張 2011, など)。例えば, 山田 (1999) は, (9) のような「発話・思考」名詞が主名詞になる際, これに対する中国語の訳出は同様の構造になり難く, 主名詞を動詞化した主述構造 (決心+要学习日语) で表現される傾向があるとしている。また, 以上の考察とは対照的に, 下地 (2014) は, 当該先行研究の指摘にある傾向を認めつつ, 张伯江 (2014) の例を挙げるなどして, 中国語にも日本語に直訳しにくい名詞句が存在し, いわゆる「外の関係」の名詞修飾も柔軟かつ生産的に用いられているとしている。

(10) C. 所以小时候就是想做一个好演员, 做灯光开得最亮的演员, (中略)……有前途的演员。 (张伯江 2014:55)

J. だから, 小さいころは良い俳優になりたかった。灯したスポットライトが最も明るく輝く俳優に。将来性のある俳優に。

(11) C. 我们参观访问 (時) 的照片 (下地 2014:604)

J. 私たちが見学・訪問した \* (時の) 写真

以上のように, 先行研究では, 日本語と比べて中国語の名詞句の使用頻度の低いことが指摘されてきた。しかしながら, 一方では, (10) (11) に見られるように, 中国語の中にも日本語に訳しにくい名詞句が確かに存在するようである。一体なぜ, 日本語と中国語の名詞句の間にはこのような違いが存在するのだろうか。

以上の問題について, 本研究の第 I 部分では, 寺村の分類を承けた益岡・田窪 (1992) の記述を出発点とし, 「補足語修飾節」(第 2 章), 「内容節」(第 3 章), 「相対名詞修飾節」(第 4 章), の順に, 日本語と中国語における名詞句の相違に関する分析を試みる。

## 【第 II 部】

第 II 部では (iii) の問題を中心に議論を進める。この部分では, 特に日本語と中国語における話し言葉に見られる名詞句がそのまま文になる現象を取り上げて考察する。これまで, 文の定義は言語学・文法研究上の難問であるということがしばしば言われてきており, 一般的に, 文は客観的な事態を描く部分 (命題, proposition) と, 話し手の主観的態度を表す部分 (モダリティ, modality) によって構成されると記述されてきた経緯がある (Fillmore 1968, 三上 1953, 益岡 1987, 仁田 1991, 于康 1996 など)。例えば, 「彼が大きな車を買うようだ」という文の場合, 「彼が大きな車を買う」は客観的事態を表し, 「ようだ」は話し手の主観的態度を表す。名詞句「大きな車」は, 命題を組み立てる要素である。三者の関係は図 1 のようになる。また, 連体節「大きな」の有無に関わらず, この文が独立文であることには変わりがない。言い換えれば, 連体節は文を構成するための主役ではなく, 脇役にあたる働きをできると言える。

(12) 彼が大きな車を買うようだ。

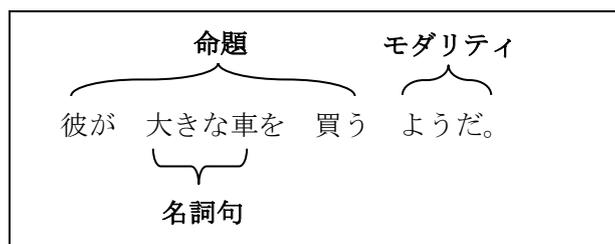


図1 文の構造

ところが、話し言葉において、「大きな車」という名詞句は、「彼」が実際に購入してきた車が話し手の予測を超える大きさだった場合、名詞句のみで発話することが可能になる（時には「おっきな」のように、促音が生じることもある）。

(13) 「わあ、大きな車！」 (わあ、\*車！)

すなわち、名詞句は命題を構成する要素であるのみならず、特定の発話場面においては独立文としても成り立つ場合がある。ここでは、(13)のように形式的に述語を伴わず、名詞句が文の主要部になる表現を、議論の便宜上、「独立名詞句」<sup>3</sup>と名付ける。文のプロトタイプは述語によってまとまる文に他ならないが、独立名詞句は述語形式を持たないにも関わらず、まとまった発話となる表現形式であると言える。名詞句による独立文が「文」として周縁的であることから、プロトタイプの文に比べて、独立名詞句の研究はそれに相応しい十分な注目を浴びていないとは言えない。そのような状況においても、日本語学では、山田 (1908, 1922, 1936) をはじめ、川端 (1966)、尾上 (1986, 1998)、近藤 (1990)、石神 (1995, 1997)、仁田 (1997)、笹井 (2005)、仁科 (2008) など、文法現象から意味の記述に至るまで、数々の研究成果が蓄積されている。これに対し、中国語学における独立名詞句の研究は、日本語学よりも注目の度合いが低いように思われる。さらに、対照研究の立場から日本語と中国語における当該表現を対象に取り上げるアプローチもまれである。以上の独立名詞句に関する各言語における先行研究の分量に見られる不均衡は、両言語における独立名詞句の生産性の差を反映しているのかもしれない。例えば、日本語では、朝起きて窓を開けると (14) のように「わあ、いい天気！」

<sup>3</sup> 例 (13) の発話文脈では、ムードを表す接尾語「ダ」を独立名詞句「わあ、大きな車！」に付け、「わあ、大きな車だ！」と言い換えにくい。しかし、下記の例なら、名詞句に「ダ」を付けても自然である。

(i) (動物園に行って、ライオンの檻を見ると、白いライオンがいる。そのライオンを見て) (生越 2002 : 87, 一部変更)

J. 白いライオンだ！

C. 白獅子！

本来日本語学では、独立名詞句と言え、接尾語「ダ」などを付けることができない名詞句を指すが、ここでは議論の便宜上、「ダ」などが付けられる (i) の「白いライオン！」のような名詞句も含め、「独立名詞句」と名付ける。この指摘は福田嘉一郎先生によるものである。ご指摘に感謝する。

と発話することができるが、中国語では、それと対応する(14C<sub>1</sub>)の“多好的天气啊!”よりも、主述構造を有する(14C<sub>2</sub>)の“天气真好!(天气が良い)”のほうが一般的である。ところが、真夏の37度の暑さなのに厚着をしている友だちを気づかった文脈においては、中国語の方が(15C)“多热的天啊!(なんて暑い日)”を発話することができるのに対し、日本語では同構文による発話が成立しにくくなる。

(14) (朝起きて窓を開けると、気持ちよく晴れ渡っていることに気付く)

J. わあ、いい天気!

C<sub>1</sub>. 哇，#多好的天气啊!

C<sub>2</sub>. 哇，天气真好!(わあ，(今日は) 天气が良い!)

(15) (気温37度の暑さなのに、厚着をしている友達を見て驚き呆れながら)

C. 多热的天啊! 你怎么穿这么多的衣服啊。

J<sub>1</sub>. #なんて暑い日! どうしてそんなに厚着しているの。

J<sub>2</sub>. こんなに暑いのに、どうしてそんなに厚着しているの。

第Ⅱ部分では、第2章と第3章にかけて中国語における独立名詞句の分類を試み、それぞれの意味機能の解明を試みる。続く第4章と第5章においては、日本語との対照を通して、日中両言語における独立名詞句の特質を明らかにする。

### 【補説】

最後に、関連する議論として、中国語における二種類の状態形容詞の用法について考察を行う。中国語学では、形容詞を「性質形容詞」と「状態形容詞」に大別することが一般的である(朱徳熙 1956, 1982)。性質形容詞は、ある事物が本来的に持っている属性を描く形容詞の基本形式であり、単音節形容詞と一部の二音節形容詞を含む。これに対し、状態形容詞は一時的な時点において観察される事物の具体的な性質を生き生きと描くもので、形式的に(16)に示す4つの下位類があるとされる。

(16) 状態形容詞(朱徳熙 1956, 1982を参照されたい)

A. 重ね型

単音節形容詞: 红红, 大大, 快快, 远远, 慢慢, 高高, 短短, 好好

二音節形容詞: 漂漂亮亮, 干干净净, 大大方方, 认认真真, 安安静静

B. 接尾辞を付加した形容詞: 黑乎乎, 臭哄哄, 光溜溜, 红通通, 绿油油

C. “霎白, 冰凉, 通红, 鲜红, 喷香, 贼亮, 精光……”

D. 形容詞を中心とするフレーズ: 很大, 挺好, 非常漂亮

本研究において取り上げるのは、(16A)の「形容詞重ね型」と(16D)の「“程度副詞+形容詞”型」の二種類の状態形容詞である。この二種類の状態形容詞の違いを明らか

にすることは、中国語学のみならず、第二言語としての中国語教育にとっても重要な課題であると言える。これまでは一部の研究（汝淑媛（2007），李劲荣（2014:96-113）など）を除いて、このような現象にあまり大きな関心は寄せられてこなかったように思われる。このような背景を踏まえ、本研究では、益岡（1987）等における「属性叙述」と「事象叙述」の観点から、形容詞のカテゴリーにおけるこの二種の状態形容詞の位置づけとそれぞれの用法を明らかにする。